



ESC アクティブ/アクティブ高可用性でのクラスタの管理

この章の内容は、次のとおりです。

- [ESC アクティブ/アクティブ高可用性でのクラスタの管理 \(1 ページ\)](#)

ESC アクティブ/アクティブ高可用性でのクラスタの管理

ESC アクティブ/アクティブ HA でクラスタを管理するには、任意の ESC ノードで `escadm` コマンドを呼び出して、アクティブ/アクティブクラスタ内のすべてのノードで実行します。

クラスタレベルの呼び出しでサポートされているコマンドは次のとおりです。

- `escadm start`
- `escadm stop`
- `escadm geo start/stop`
- `escadm vim show`

前のコマンドをアクティブ/アクティブローカルクラスタ内のすべてのノードで実行するには、オプション `--cluster` を追加します。

次に例を示します。

```
sudo escadm geo start --v -cluster
```

各ノードのコマンドと `exit` コードの出力は、実行結果とローカルノードの出力を区別するために、そのノードの IP アドレスとともに表示されます。

`escadm geo start --cluster` の例：

```
[root@name-geo-2-1 admin]# escadm geo start --cluster
192.168.1.13 # remote host
exit status : 0
Starting geo service: [OK]
192.168.1.12 # remote host
exit status : 0
Starting geo service: [OK]
Starting geo service: [OK] # output of the local node
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。